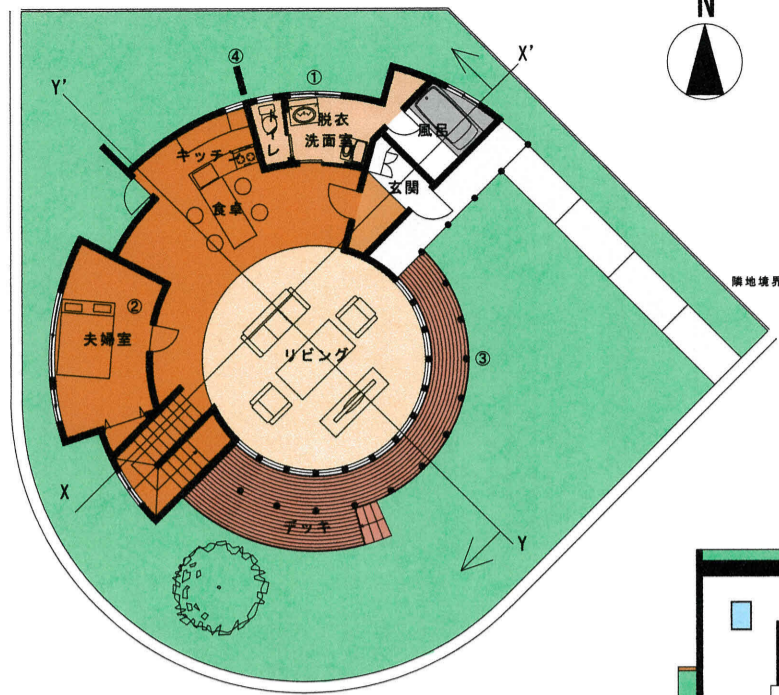


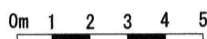


昨今の新型コロナウイルスの影響により、リモートワークという業務形態を選ぶ個人、企業が増えている。そこで私は、家に職場を持つ人のための住宅を提案する。ワークスペース専用の空間を設け、居住空間との分別を考える。リビングとは別にリラックススペースを設け、業務中に休憩できるスペースとしての役割、家族団らんのスペースとしての役割を持たせ、2つの役割を持つスペースとなる。リモートワークをされている方から生活リズムを崩しやすいという話を聞いたことがある。この問題を解決するため、生活リズムを整える機能を付与したい。そこで家族との時間を刻んでいきたいという意味も込め時計をモチーフに設計した。リビングを生活の軸とした。さらにリビングに向かう壁を外に伸ばして時計の針を表現した。「おうち時間」が増えたことにも着目し、リビングが中心となるような円を多用した。コロナの由来である「太陽」と人の「時間的同線」、「環」に着想し、コンセプトを「幻日環」とした。

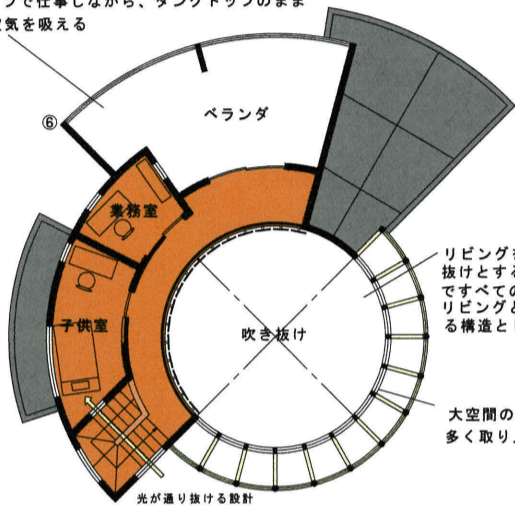


配置図兼1階平面図

S=1/100



あえて壁で遮ることで、プライベートな空間をつくる。夏はタンクトップで仕事しながら、タンクトップのまま外に出て外の空気を吸える。



2階平面図

リビングを吹き抜けとすることですべての室がリビングと繋がる構造とした。

大空間のリビングに南からの光を多く取り入れるようにした。

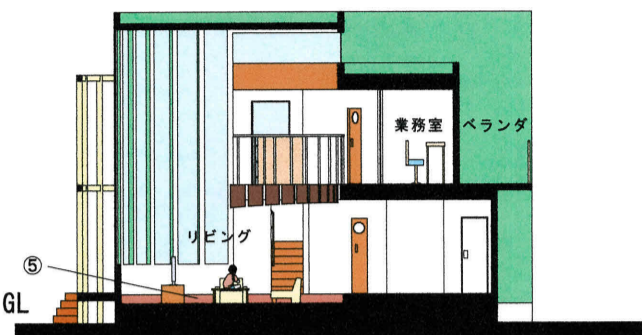
光が通り抜ける設計

単調な立面を避けるため装飾板を挿入。



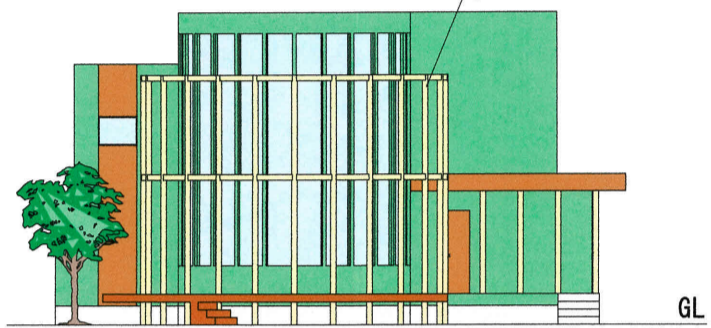
X-X' 断面図

S=1/100



Y-Y' 断面図

S=1/100



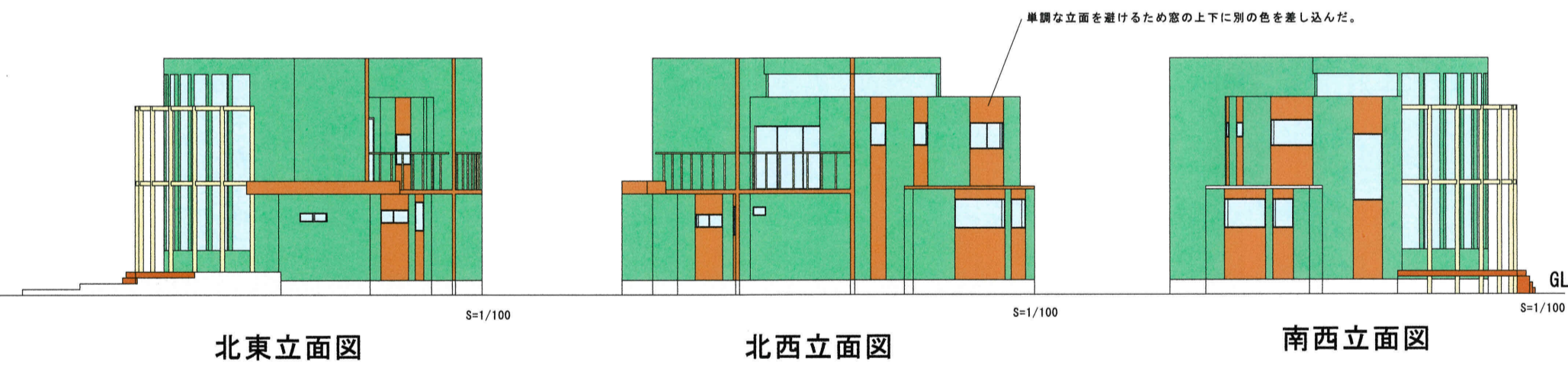
南東立面図

S=1/100

- ①: 顔を洗う時、日が差しすっきりとし朝を迎えられる。
- ②: 朝、起きてすぐ母がキッチンに向かうことができる。
- ③: 時間によって柱と梁の影が変化し、室内に深い影、浅い影様々な影が浮かび上がる。時間の流れをより実感できる。
- ④: 壁をリビングから飛び出すように伸ばし、リビングが家の中心にあるようにした。
- ⑤: リビングの高さを下げ、外からの視線を遮りプライベートな空間とした。
- ⑥: 円環を意識し壁を放射状に伸ばした。

敷地面積	257.46㎡	建築面積	100.62㎡
1階床面積	84.91㎡	建ぺい率	39.08%
2階床面積	28.48㎡	容積率	44.04%
延べ面積	113.39㎡		

島根県立松江工業高等学校 建築都市工学科 秦遼斗



北東立面図

S=1/100

北西立面図

S=1/100

南西立面図

S=1/100

単調な立面を避けるため窓の上下に別の色を差し込んだ。

模型写真

